

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこ未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4
Tel. 0285-82-6285 e-mail tonpei@i-berry.ne.jp
ホームページ <https://www.nakamurakazuhiko.com>



vol.65



一般質問が実現しました！

教育委員会に『スクールソーシャルワーカー』を配置

真岡市教育委員会では、今年度から教育相談体制を充実させるため『スクールソーシャルワーカー』を、独自に配置することになりました。

この『スクールソーシャルワーカー』は、児童・生徒が抱えている問題に対して、より適切かつ迅速に解決するため、学校や家庭、さらには関係機関との連携を図るとともに、保護者や教職員への支援・相談などの業務を担当します。

※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

6月定例議会報告

6/10 ▶ 6/26

6月定例議会が、6月10日(月)から26日(水)にわたって行われました。

今回、執行部から提出された議案は、工事請負契約(防災無線のデジタル化、道の駅のみや内の物産館新築工事、学校ネットワーク構築)や『学校ネットワークセキュリティ機器の取得』など計10件で、いずれも原案通り可決されました。

令和最初の
質問者として！

一般質問

議員による質疑・一般質問は、17日(月)と18日(火)の2日間行われ、中村は17日のトップバッターとして、計5件の一般質問を行いました。



執行部は答弁の中で、

- ◆『コミュニティ・スクール』の導入について調査・研究を行っていく。
 - ◆現在策定中の『第12次市勢発展長期計画』は、今年12月の定例議会に提出予定であり、計画の名称も見直すか検討していく。
- などの考えを示しました。(中面に関連記事)

中村が行った一般質問の内容

1.人口減少時代における取り組みについて

- (1)『人口ビジョン』が掲げる目標数値について
- (2)新たな少子化対策について
- (3)多子世帯に対する経済的な支援について

2.教育関係の諸課題について

- (1)今年度から配置された『スクールソーシャルワーカー』について
- (2)『コミュニティ・スクール』の導入に向けた研究・検討について
- (3)『教育研究所』の設置について

3.芳賀赤十字病院の跡地利用について

- (1)跡地利用に向けての進捗状況について
- (2)地元住民との情報共有について

4.障がい者の生活拠点整備について

- (1)グループホーム等の整備に向けた進捗状況について
- (2)今後の取り組みについて

5.『第12次市勢発展長期計画』について

- (1)策定に向けてのプロセスについて
- (2)計画に新しく盛り込もうとしている施策について
- (3)計画の名称について

市民と市政のかけ橋になりたい！
☆お気軽にお声をかけて下さい。
☆お友達との井戸端会議、勉強会等、2〜3人でも結構です。どこへもお伺いいたします。
☆あなたのアイデアを市政にいかしたい！
お気づきの点がございましたら、どんな小さなことでも結構です。ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします
これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行して来ましたが、1〜64号までを見逃された方は、お気軽にご連絡下さい。
こちらからお送りさせていただきます。

次回発行予定日
10月27日(日)
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

…さらなる議会改革・活性化を目指して…

『議会活性化等検討委員会』が発足

真岡市議会では、これまで4年間にわたって『議会活性化等検討委員会』を組織し、『議会基本条例の制定』や『議会報告会の開催』、さらには『質疑・一般質問の方式の見直し』、『災害対応規程の制定』などに取り組んできました。

改選後においても、さらなる議会改革・活性化を進めるため、各党派や当選期別の代表者が集まり、引き続き『議会活性化等検討委員会』を発足させることになりました。

6月定例議会の閉会日だった6月26日(水)に第1回目の会合を開き、正副委員長の互選などが行われ、中村が副委員長に選出されました。

議会活性化等検討委員会のメンバー (◎、○は正副委員長)

◎柴 恵 議員	渡邊 隆 副議長	大瀧 和弘 議員
○中村かずひこ	荒川 洋子 議員	櫛毛 隆行 議員
星野 守 議長	久保田 武 議員	池上 正美 議員





中村かずひと議会レポート

6月定例議会 一般質問

【答弁者】
 石坂 真一 市長
 田上 富男 教育長
 成毛 純一 総務部長
 石田 誠 健康福祉部長

質問:中村かずひこ

1.人口減少時代における取り組みについて



質問 『日本創成会議』によれば、2040年の真岡市の人口を約6万7千人と予測している。一方、2015年に真岡市が策定した『人口ビジョン』では、2040年の人口の目標を約7万4千人としている。ただし、そのためには合計特殊出生率を現在の1.52人から、2.07人まで上昇させる必要があるという。この『人口ビジョン』の目標について、市はどのようなものと位置付けているのか。

答弁 人口を約7万4千人とする**目標数値**は、国勢調査や出生、死亡、転入、転出といった**統計資料、市民アンケートによる意見**などを分析し、**算出したものである**。真岡市の各施策における効果により、約7万4千人の将来人口を目標としていく。

再質問 『人口ビジョン』の策定前に、真岡市は**市民アンケート**を実施している。その際、**20代・30代の未婚者が『将来欲しい子どもの人数』**として回答した平均値が**1.92人**である。今回の2.07人は、その数値をさらに上回るものである。この目標数値は、**願望**という意味を含めての目標なのか、**何としてもクリアすべき課題と捉えているのか**。

答弁 **絶対ということではない**。そこを目指すということ考えている。

質問 私が議員になった翌年、**2004年の合計特殊出生率は1.41人**だった。その後、**15年間**にわたって様々な少子化対策と子育て支援策を進めても、**上昇したのは0.1ポイント**である。ここからさらに**0.5ポイント**上げようとするならば、**新たな少子化対策が必要不可欠**ではないか。

答弁 真岡市では、子ども医療費の拡充や乳児紙おむつの助成券支給などの経済的な支援、子育て世代包括支援センターによる相談業務に加えて、女性向け創業セミナーの開催や病児保育事業など子育てと仕事の両立に向けた取り組みも行ってきた。**今年度の新たな事業として『産後ケア事業』や『妊産婦検診診査の拡充』**などを実施し、少子化対策を推進していく。

質問 真岡市が取り組んできた少子化対策を振り返ると、**多子世帯への経済的な支援**については遅れていたように思われる。例えば、子どもが3人以上産まれたら**高額の出産祝い金**を出している自治体も見受けられる。また、**税制面での優遇**も1つの方法と考える。そうした取り組みも、今後検討すべきではないか。

答弁 出産や育児に伴う費用の負担は、出生率低下の一因と考えられる。現在、真岡市では**第3子以降**に対して、**5万円の祝い金**を支給しているほか、**保育料免除**などを実施している。また、今年10月から予定されている**幼児教育・保育の無償化**において、**対象外となる世帯**(年収360万円以上で、兄弟が同時に在園していないケース)の**第3子以降の副食費**も、市単独で補助をしていく考えである。

再質問 今、触れていたような事業を進めても、合計特殊出生率の上昇は**0.1ポイント**程度である。市民アンケートの結果を見ると、**出産を躊躇する理由**として、**56.6%の市民が経済的な事情**を挙げている。そうしたことを考えても、さらに**新たな起爆剤となる施策**が必要なのではないか。

答弁 確かに、子どもを産むことを躊躇する理由として、経済的な事情というものはあるかと思う。しかし、**一時的に金額を増やすこと**で、本当に**出生率に影響を及ぼすのか**。それだけでなく、**教育など様々な分野を充実させる**ことが必要ではないかと考えている。

要望

今回申し上げたかったのは、**合計特殊出生率を上げる**という難題に対して、**市がどこまで覚悟をもって挑むのか**、ということである。今から**約20年後**の日本は、人口が**毎年100万人近く減少**すると同時に『**第2次ベビーブーム世代**』が**65歳以上**となり、高齢者人口がピークを迎える。『これで、日本の社会システムは維持できるのか』といった議論も、すでに総務省などを中心に始まっている。ぜひとも、子育て世代の意見を反映させながら、人口減少に向けた取り組みを、これまで以上に果敢に、スピーディーに取り組んでいただきたい。

2.教育関係の諸課題について



質問 今年度から、真岡市では教育相談体制を充実させるため『**スクールソーシャルワーカー**』を独自に配置した。配置後2ヶ月が経過したが、**現在の状況**はどのようになっているのか。また、**今後担うべき役割**について、教育委員会でどのように捉えているのか。

答弁 4月の配置以来、**市内全小中学校を訪問**して、児童・生徒の実態把握を行っているほか、**児童相談所などとの連携**を図っている。また、**不登校生徒の家庭を訪問**し、当該生徒や保護者との面談も実施した。今後、①教員や保護者に対する面談、②学校や家庭を訪問し、環境改善に向けた助言、③関係機関と家庭、学校との連携強化などが期待される。

要望

先日、残念ながら真岡市でも**児童虐待**の事案が発生した。今後、そうしたことを**未然に察知**するためにも、**スクールソーシャルワーカーの役割は非常に大きい**と思う。従来からあった、臨床心理士やスクールカウンセラーが、子どもの内面に光を当てることが仕事ならば、スクールソーシャルワーカーは、**子どもの人間関係に光を当てていく**ことが仕事とされている。そう考えると、関係機関との**ネットワークの構築**は欠かせない。そのような課題については、ぜひ**教育委員会全体で**取り組んでいただきたい。

質問 『**コミュニティ・スクール**』は、保護者や地域住民が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりできる制度を持った学校のことである。これまで、各地の取り組みを視察したが、いずれの学校でも**地域と学校の信頼関係が強化**され、**教員の多忙感解消**や**子ども達への指導力向上**につながっている。真岡市でも研究・議論すべき時期に来ていると思われるが。

答弁 栃木県内の『**コミュニティ・スクール**』の導入については、現在までに小山市をはじめ**9市町の小中学校が指定**されている。2017年4月には『**地方教育行政の組織及び運営に関する法律**』が改正され『**コミュニティ・スクール**』の設置が**努力義務**となった。今後、真岡市においても**導入について調査・研究**をしていきたい。

要望

一時期、栃木県は『**コミュニティ・スクール**』の後進県と言われていたが、現在では9市町で導入が図られている。**それぞれの自治体では、自分達に適合した手法を取り入れている**。そうした現状も**逐次調査**しながら、真岡市にマッチした『**コミュニティ・スクール**』の制度を、1日も早く導入していただきたい。

質問 『**新学習指導要領**』が、2020年度から小学校で、2021年度には中学校で**全面实施**の予定である。そうした教育の新しい流れを見ると、**教育分野の戦略を立てる部署**の必要性を強く感じる。不登校や特別支援教育など、専門性を問われる課題に対応するためにも『**教育研究所**』を設置すべきではないか。**県南6市で自前の教育研究所がないのは真岡市だけ**だが。

答弁 真岡市では、**2016年度から**学校教育課に『**指導係**』を設置した。現在は7名の指導主事により、①授業改善の取り組みに具体的な方策を示すなど**各学校への支援の充実化**、②**各種研修や事業の充実化**、③**児童・生徒の諸問題への迅速な対応**などの効果を上げている。今後も、指導体制の充実を図り、真岡市の独自性ある教育施策を展開していきたい。

再質問 今回指摘をしているのは、個々の授業の質的向上などではない。新しいカリキュラムも増える中で、**全体のバランス**を考えながら、**いかにして教育を進めるのか**ということである。以前、このテーマについて質問をした際、教育長は『**教育研究所**』の必要性は認めつつ、**指導係を設置したばかりなので状況を見極めたい**との答弁だったと認識しているが。

答弁 **戦略を立てる**ことは、絶対的に必要であると考えている。真岡市の教育施策も、**中長期の展望に立ったもの**である。ただし、**戦略を立てるのにも実態の把握**が必要となる。そのためには、**教育研究所を設置するよりは、指導係が現場に出向き、多くの情報を収集した方がよい**と思っている。

要望

今年度、真岡市では**市長部局で『総合政策課』**が新たに設けられた。これは、**戦略を立てる部署の強化**が求められているからであり、**教育委員会においても全く同じ**ことが言えると思う。他の自治体では『**教育研究所**』を設置しているところが多い。その点については、**組織再編の際に再度検討**していただきたい。

3. 芳賀赤十字病院の跡地利用について



質問 今年3月に芳賀赤十字病院の新病院がオープンしたが、その一方で忘れてはならないのが台町にあった旧病院敷地の活用という課題である。以前に質問した際、土地の所有者は日本赤十字社であるが、中心市街地の広大な土地であるため、市としても関係機関と協議をしていきたいとのことだった。現在の進捗状況は。

答弁 芳賀赤十字病院の跡地利用については、真岡市としても第11次市勢発展長期計画増補版に掲げる『高齢者・健康増進ゾーンの整備』の推進に向けて、庁内で検討を進めてきた。活用の検討を進めている病院側の動向を注視しているところである。

再質問 『高齢者・健康増進ゾーンの整備』ということであるが、市が土地を購入した上で整備を進めることも視野に入れているのか。また、その可能性はどのくらいあるものなのか。

答弁 日本赤十字社については、全ての権限が本社にある。真岡市として、中心市街地リノベーションの一環としての活用方法もあるということを伝えてはいるが、まだ日赤本社では意思決定をしていない状況である。

要望 跡地利用については、行政が主導する方法、民間に委ねる方法、そして行政と民間が協働で進める方法と様々だと思う。ぜひ、各地の状況も調査をしていただき、有効な活用をお願いしたい。

質問 芳賀赤十字病院の跡地利用について、最も心配をし、最も今後影響を受けるのは、周辺に住んでいる方々である。地元住民をも巻き込んだ情報共有の場は必要ではないのか。

答弁 芳賀赤十字病院との今後の状況により、跡地の取得が可能となった場合、必要であれば地元住民との情報共有を進めていきたい。

再質問 跡地利用で最も影響を受けるのが地元住民である。今後、地元にとって問題があるような施設の整備が決定されてしまうと、その後で騒いでも遅い話になってしまう。だからこそ、こまめな情報共有が必要ではないのか。

答弁 現時点において、日赤本社の考えが分からない以上、慎重に対応しなければならない。地元の方々が複雑な思いを持っていることは十分に承知している。しかし、簡単に情報を共有できるものなのか非常に難しい問題であり、ご理解いただきたい。

4. 障がい者の生活拠点整備について



質問 将来、障がい者の親がなくなった後、さらには、障がい者自身が高齢化、重度化した際にも対応できるような住居の整備は、今後の大きな課題である。以前の質問で、今後は市内だけでなく、近隣自治体に拠点を置く法人にも、整備に向けた協力を依頼していくとのことだったが、その後の進捗状況はどのようになっているのか。

答弁 現在、市内には4つのグループホームが、3つの社会福祉法人によって設置・運営されており、定員は20名である。この1年間においては、状況の変化はない。

再質問 『変わっていない』と答弁されて、それを是認する訳にはいかない。どこかの法人ときちんと交渉しているのか。そのあたりのプロセスを説明していただきたい。

答弁 現在、市内にある4つのグループホームに対して、施設の拡充について意向を聞いたところ、人材の確保や先行きの不安などから、新たな設置は難しいとのことだった。近隣自治体にあるグループホームについては、訪問して話を聞く計画であったが、昨年度はできなかった。

質問 この数年間に芳賀地域の他町では、グループホームの整備が進んでいる。今後の整備に向けた考え方について聞きたい。

答弁 現在のところ、真岡市の利用者がグループホームのサービスを受けられない状況ではないが、引き続き事業者へ設置の働きかけをしていきたい。

要望 障がい者の『親なき後』という大変重要な課題を話し合っている。今は大丈夫だからとのんびり進められては困る。他の自治体では進んできたものであるため、真岡市としても取り組みを見直していただきたい。それと同時に、障がい者の入居施設について、今後制度の見直しも考えられるので、国の動向も見据えていただきたい。

5. 『第12次市勢発展長期計画』について



質問 今年度は『第11次市勢発展長期計画』及び『増補版』の最終年度である。つまり、来年度は新しい『第12次市勢発展長期計画』の下で市政運営が進められることになる。計画策定に向けて、昨年8月以降『市民会議』などもスタートしているとのことだが、今後のプロセスはどのようになっているのか。

答弁 計画策定については、①係長や課長による各階層のグループで素案を作成。その後、②副市長と部長などで構成する推進委員会で内容を協議し、③市長を本部長とする推進本部の審議を経て、計画の原案を作成する。また、公募による市民や各界の代表者23名による『市民会議』を開催していく。計画案は今年9月末を目途に策定した後、パブリックコメントを実施し、12月定例議会に議案として提出予定である。

再質問 協働のまちづくりということを考えると、市民を巻き込んだ計画策定というものが欠かせないと思う。『市民会議』については、何回くらい話し合いを、どのような内容で行う予定なのか。

答弁 『市民会議』は合計で4回予定している。内容については、素案が出た段階で1回、パブリックコメントを実施する前の段階で1回、さらに最終案ができてから『まち・ひと・しごと創生総合戦略』との絡みで2回の会議を予定している。

再質問 新たに策定される市勢発展長期計画において、前提となる人口予測は『人口ビジョン』に掲げた目標数値なのか、あるいは『日本創生会議』や『国立社会保障・人口問題研究所』などが出している予測なのか。

答弁 『まち・ひと・しごと創生総合戦略』と同時策定ということになるので、『人口ビジョン』がベースになると思われる。

再質問 先程の答弁では『人口ビジョン』の目標数値は、絶対ではないとのことだった。その目標数値を前提として計画を策定するとのことであるが、『人口ビジョン』の目標数値そのものを見直す可能性はあるのか。

答弁 現時点で変更の予定はないが、各種施策に基づきながら、どこまで人口増が可能なのか。そういう観点からの数値の調整はあると思う。

質問 現在の『第11次市勢発展長期計画』は、井田前市長の時代である2015年に策定されたものである。その後、石坂市長に替わり、計画の増補版が誕生した。つまり、今度の『第12次市勢発展長期計画』が、いよいよ石坂カラーが前面に出た計画になる。新たに盛り込みたいと考えている施策は、現時点で何かあるのか。

答弁 少子化・高齢化への対応、進化を続けるICTの活用、魅力ある地域産業の推進、ワークライフバランスの推進などを積極的に取り入れ、若い世代が『真岡市に住みたい、働きたい、子育てしたい』と考え、誰もがわくわくするまちづくりの実現に向けて、市民と行政が一体となって取り組んでいけるような計画を策定していきたい。

質問 真岡市が初めて『市勢発展長期計画』を策定したのは昭和45年のことである。その後、時代の変遷とともに改訂を重ね、現在の第11次計画となっている。しかし、本格的な人口減少時代、成熟社会を迎えた中で、総合計画の名称として今後も『市勢発展』という言葉を使い続けることがふさわしいのか大変疑問に感じる。今も『市勢発展』という言葉を用いているのは、県内14市の中では真岡市だけだが。

答弁 これまで真岡市は、農・商・工のバランスの取れたまちとして発展してきた。しかし、人口減少、超高齢社会の進展、防災意識の高まりなど、社会情勢は変化しており、時代の流れを的確に捉えることが求められている。最上位の計画に『市勢発展』という言葉を使用するかどうかについては、策定委員会や市民会議において検討していきたい。

要望 初めて『市勢発展長期計画』が策定された昭和45年の頃は、本当に右肩上がり、今後も伸び続けることが期待された時代だった。その時代が長かったこともあり、人口減少時代となったにもかかわらず、個々の意識としてギアチェンジできていないというのが、今の状況ではないかと思う。そうした中で、令和の時代に入った。ぜひ、新しい計画は、中身も名称も、新しい時代にふさわしいものになってもらえればと願っている。



私の政治活動費

この1年間（平成30年5月1日～平成31年4月30日）にかかった私の政治活動費について皆様にご報告いたします。

項目	金額	備考
印刷広告費	1,548,767円	中村かずひこ通信、リーフレット、名刺等
ホームページ更新費	140,000円	
書籍・資料購入費	11,339円	
研修参加費	32,500円	清溪セミナー参加費等
交通費	95,140円	個人で参加した研修の交通費
食糧費	0円	
通信費	14,996円	郵送費
文具費	5,093円	封筒、ノート、ファイル
家屋費	300,000円	事務所家賃
光熱水費	49,394円	水道料、電気料
その他	25,733円	



皆様からのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

※ 詳細に知っていただくため、個人視察時の交通費なども掲載いたしました。

※ なお、過去の政治活動費については『中村かずひこ通信』の1,5,9,13,17,21,25,29,33,37,41,45,49,53,57,61の各号をご参照下さい。

総額 2,222,962円

コラム むあっぴ

2040年に全国の約半数にあたる896市区町村が消滅の危機に直面するという予測を『日本創成会議』が発表したのは今から5年前のことになる。当時「消滅可能性都市」という言葉がメディアなどに頻りに登場し、私達に大変強い衝撃を与えた。

以前にもこのコラムでご紹介したが、その『日本創成会議』によれば、真岡市の2040年の人口を約6万7千人と予測している。真岡市は、今から10年前に市町合併を果たして人口約8万3千人の市となったが、合併から30年を経て、旧二宮町分の人口が丸ごと減少するとの予測が立てられているのである。

ちなみに、今は人口が極集中している東京都でさえ、6年後の2025年から人口減少に転じると言われている。

こうした課題を踏まえて、真岡市では2015年10月に『人口ビジョン』を策定し、2040年の人口を約7万4千人とすることを目標として掲げている。先に触れた『日本創成会議』の予測よりも7千人ほど多い。

ただし、これには1つ条件があり、合計特殊出生率を現在の1.52人から2.07人にまで上昇させる必要があるというのである。2.07という数字は、日本において『現在の人口を維持するのに必要な出生率』（人口置換水準）を根拠としている。しかし、これを目標とするのは、大変に高いハードルであると言わざるを得ない。

私が市議会議員に初当選した翌年、2004年の真岡市の合計特殊出生率は1.41人だった。つまり、真岡市が15年間かけて様々な子育て支援策や少子化対策に取り組んだにも関わらず、上昇したのは0.1ポイント程度なのである。

合計特殊出生率2.07人というハードル～『人口ビジョン』について考える～

人口が増えるには2つの要因に分けられる。1つは、出生数が死亡数を上回る『自然増』。そしてもう1つが、転入数が転出数を上回る『社会増』である。今回取り上げている『人口ビジョン』は、そもそも社会増・社会減についてはあまり計算に含めていない(2025年に転入・転出を±0にするという目標は掲げている)。人の転入・転出は景気の動向などによる不確定要素が大変に多いからだと思う。

そうした『人口ビジョン』の方針に沿って考えれば、『日本創成会議』の予測よりも7千人多い人口目標というのは、新生児の人数を20年間で合計7千人増やすということと同じ意味だと言っていい。年平均にして350人増。毎年概ね700人の子どもが産まれている真岡市としては、出生数を1.5倍にするということである。

今、真岡市では『第12次市勢発展長期計画』が策定中である。この計画は、真岡市にある様々な計画の中でも、最上位に位置付けられている。

6月定例議会の一般質問の答弁によれば、同計画は『人口ビジョン』に示されている人口目標を根拠にする予定なのだという。計画の前提となる人口予測、その中でも特に子ども的人数が大きく異なれば、求められる施策は全く違うものになってしまうはずである。

『人口ビジョン』が、国の指針に従って策定されたものだとしても、目標設定に無理があるのならば早急に見直すべきである。また、本気で合計特殊出生率を2.07人にまで上昇させようというのであれば、もっと子育て支援策や少子化対策にスピード感、切迫感が欲しい。

人口確保という重要なテーマを『絵に描いた餅』にさせてはならない

中村かずひこ活動日誌

4月	
1日 市職員辞令交付式 休日夜間診療所開院式 伊夜日子会会計監査	13日 真岡市消防団歓迎式
2日 『ひばりの会』定例会	14日 市議会議員選挙告示(運動期間～4/20) 守鐵社祭・桜まつり
3日 真岡市準倫理法人会モーニングセミナー	21日 市議会議員選挙投・開票
5日 芳賀郡市町議会議長会会計監査	22日 当選証書授与式
伊夜日子会総会	23日 市職員OB友の会総会
6日 のみや商工会青年部 夜桜～Night Blossom～	真岡市農業再生協議会総会
7日 北真岡ふれあい桜まつり	24日 寺久保地区いきいきサロン 地域公民館連絡協議会総会
県議会議員選挙投・開票	25日 春の交通安全県民総ぐるみ運動推進代表者会議 部課長会歓迎式
8日 真岡中学校入学式	27日 真岡木綿会館リニューアルオープン記念式典
9日 大内中央小学校入学式	28日 栃木県戦没者合同慰霊祭(於:栃木県護国神社)
11日 夏祭り町会連合会総会	
5月	
8日 会派代表者会議 議会運営委員会 議員協議会	21日 任期満了に伴う感謝状贈呈式
13日 あいさつボランティア 会派間協議	22日 真岡自然観察会役員会
15日 臨時議会	23日 真岡市戦没者追悼式 芳賀郡市町議会議長会送別会
16日 知的障がい者育成会研修会	25日 真岡西中学校スポーツフェスティバル
19日 コットンウェイ硬式野球倶楽部総会	27日 あいさつボランティア
20日 あいさつボランティア	30日 高根沢さくら倫理法人会モーニングセミナー(於:高根沢町) 真岡市遺族会連合会総会
6月	
3日 あいさつボランティア 会派代表者会議 議会運営委員会 議員協議会 会派『もおか新時代』勉強会	20日 民生文教常任委員会を傍聴
4日 一般質問の通告書を提出	21日 産業建設常任委員会を傍聴
6日 質疑一般質問調整会議 ※その後、担当課との接見	22日 大谷地区『わかば会』奉仕作業 真岡自然観察会会計監査 臺若総会
10日 あいさつボランティア 6月定例議会開会 会派代表者会議	24日 あいさつボランティア 総務常任委員会 小堀齊・市貝町議と面会
11日 臺若実行委員会	26日 議会運営委員会 6月定例議会閉会 懲罰特別委員会 会派代表者会議
16日 真岡市消防団夏季点検・消防操法大会 明治大学校友会栃木県支部総会(於:宇都宮市)	議会だより編集委員会 議会活性化等検討委員会 青色回転灯搭載車による防犯パトロール
17日 質疑一般質問1日目 ※この日、トップバッターとして登壇	28日 とちぎ次世代研究会総会・研修会(於:那須町)
18日 質疑一般質問2日目 議会運営委員会	
19日 石坂太県議『県政報告会』	

